

浜嶋です。

こんにちは。

昨日、ボーイ隊リーダー3名と副団委員長2名と私で、ボーイ隊の隊運営の改善について話し合いをしました。2団のボーイ隊は「おもろい隊」です。そして、スカウトが楽しく参加するためには、スカウト自身が自主的、主体的に活動の計画と準備、そして実施ができる環境を作って、指導していこうと考えています。「こんなおもろい活動に、友達も集まれよ！」とたくさんの友達を誘おうと、その方法について一緒に考えました。

隊活動をおもしろくするには、リーダー、そしてスカウトが、「スカウティング フォア ボーイズ」を読もうという話もできました。

そこで、最近この本で発見したことをお話したいと思います。日本連盟の「ロープむすび」の中に、カナダとアメリカ合衆国の国境を流れるセントローレンス河で、ボートが転覆した事故で、一人だけを助けることができたのが、ボーイスカウトが作った「とめむすび」のあるロープと書かれてあります。私は、ロープの説明をするときに、このことをお話することが多いです。

ところが、最近読んだ「スカウティング フォア ボーイズ」の113ページ、第Ⅲ章 キャンプ生活 開拓術 結索による人命救助 に、ナイアガラの滝で起きた悲劇として3人の親子を救助するために、ロープを使ったにも関わらず助けることができなかったことが書かれています。先の話と同じです。BPは、「きみだったらどうしただろう」と言って説明しています。

BPは、ボーイスカウト経験者らしき人がこのことについて、「その場にボーイスカウトがいたら、きっと助ける手段を見つけたに違いない」と話していることを聞いた。そして、BPの答えは、橋の上から下ろすロープには、輪を1つか2つ作っておいて、遭難者が体を入れるか手足を通すかできるようにしておくべきだった」でした。私は、「とめむすび」や「8の字むすび」で十分だと思いこんでいました。「そうか、時間が少しあるときは、もやいむすびの方がいいじゃないか！」と思いました。輪に手をいれるのとロープの端を握るのでは相当違います。助かる確率は大きくなります。もやいむすびを素早く結べることであれば、助けることができます。

「スカウティング フォア ボーイズ」を読みなおしたら、何か気がつくことがあるに違いありません。私たちのモットーは、「そなえよつねに」です。